

「七里の渡し」という名称は、宮宿から桑名宿までの距離が七里(27.5km)だったことから名付けられました。



# 歩くと 見つかると いいモノコト

熱田神宮  
西駅編

## 東海道最大の宿場、宮宿 庶民のパッションに思いを馳せる



今年1月、神宮西から名称変更された熱田神宮西駅から七里の渡し船着場跡までの距離は約1.3km。所要時間は片道約20分。往復40分となるので散歩コースとしてもぴったり。七里の渡し船着場跡には国道19(247)号線から宮の渡し歩道橋手前の斜め右に入った道を通ると早い。

名古屋の街を歩いて、新たな魅力を再発見するというこの企画。記念すべき第1回目となる今回は、東海道最大の宿場、宮宿として栄えた熱田神宮西駅界隈をブラブラと歩きました。

駅の前を走る国道19号線を南へ。目に留まったのは誓願寺。熱田神宮の周辺には数多くの神社仏閣がありますが、誓願寺は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の生誕地なのです。

源頼朝の父は源義朝。母はという熱田大宮司の藤原季範の娘。そんなことから、源頼朝は名古屋と深い縁があったのです。皆さまはご存知でしたか？

さらに南へ南へと歩くと、国道1号線と国道247号線が交差する熱田神宮南交差点に差し掛かります。歩道橋の上

南へ歩き続けて辿り着いたのは、七里の渡し船着場跡。宮宿と桑名宿を結ぶ東海道唯一の海路として多くの人々が往来していました。今の名古屋に例えると、「オアシス21」のような場所だったのかもしれない。

ずっと歩いていたのでお腹が空いてきました。熱田神宮西駅まで戻って、近くの居酒屋「おやじダイニングしょうぶ」でランチをすることに。注文したのは、「とり肉チーズの大葉巻フライ定食」。メインは言うまでもなく、小鉢やサラダ、お味噌汁など、どれも丁寧な作りであり、あまりの美味しさにあっという間に平らげました。

江戸時代、街道の宿場には大勢の人々だけでなく、情報や文化も集まり、広がっていました。殿様に仕える家臣たちが暮らす城下町も気品があつて良いのですが、私は庶民のパッションが溢れる宿場に魅力を感じています。



「とり肉チーズの大葉巻フライ定食」1,000円(税込)。ランチは毎日10種類を用意している。ご飯の大盛、おかわり無料。

筆者Profile  
フードライター&  
カメラマン  
永谷 正樹



名古屋の食をテーマに、雑誌やネットメディアなどの取材・撮影を担当。なごやめしにまつわる講演やテレビ出演も多数。ブログ「永谷正樹、という仕事。」を毎日更新中。



店舗情報  
おやじダイニング  
しょうぶ

住所 / 熱田区旗屋2-27-11  
TEL / 052-799-6658 定休日 / 月曜、たまに日曜  
営業時間 / ランチ (火~金曜) 11:30~14:00  
ディナー (火~日曜) 17:00~22:00

